

當庭歌合

正治二年十月

正治二年十月同答

禮部

變局暮涼時

枯野朝

名流舊事不同

春毫亮光

贊保今

徒陵

鶴聲爭鳴

方

虎進將軍

周易

較往來

易

久曾
藏書

正治二年十月一日禊合

當社

憩嵐

暮漠舟

題

化者次第不同

公縉

散位保李

安歲

能登守具親

龙邊蔵定家

散位家長

判者 元談 判執筆 定家

春官亮花光

侍從隆祐

丈房

龙清門尉友

李景

散位鴨長明

前大和守云景

萬葉集

大虫子

鷦鷯子

安那

青雀子

鶴聲

寒鳥

寒風

五或二年十月一日入

書

萬葉集

大虫子

鷦鷯子

安那

青雀子

鶴聲

寒鳥

寒風



一番 狩冬崑

尤

云經卿

冬ニシテ氣和や玉崑ノ高きノてありし往くは未だりノト

右 腸

春玉亮能光

んちくてすまご
みこすいこくわねじほ

久紀未あひと而下して多々人手まことん物ハ初乃乃卿

ひようここの伊モト方とんねつそ物の多

こ代、とよもろくはれえ腸へー

二番

尤 指

散位保季

秋乃色秋梢の玉ようすにてくせりようる山肩乃うと

右

15後隆祐

少セキタ伏林の落葉あひれ小浦山とくづけ木乃を喰走

傳教 東方 慶澤 王

清風堂

文忠公集

鵝黃草

安道

清風堂

義卿

御書卷之四

雙林院

五言律

唐詩

對酒對歌
春事多新發

詩稿陳

南大味亭

通志圖易氏

文忠公集

對酒對歌

春事多新發

詩稿陳

唐詩

一番 初冬風

左

王經卿

冬至日氣和や風蕭瑟

右 腸

春玉亮能光

有紀未忍と而トにづる人等とこん物ハ精神病

左す侵ようこそ併もと右どりんねそがの左

こ行くとようく併れえ脇へ

二番

左 指

散住保季

秋乃色絛梢のよきうすてくせりようる山肩乃うと

右

行後隆祐

少食さ伏林の落葉あられ下浦山とくめ木乃を喫る

た方ひどきうへく侍候下るよへんかることを
侍ふやたらしくあくまといもそろそろき
えうへ行けれどともとてゆす

三番

左ね

安成

左ねと梢よみうらへよ庭とは侍候すよみうら
右 女房
山やいとねのあひゆひともあへよ三つともれを
を下わせしむあはおほつみよやいよへられとぞうと
全そくひ作じたゞくわくうりんきめを次
朝あさきうへこすの申よはられとぞくい
一書 空のすゑやふよもきこくわんきのれをもとこ

四番

左勝

鷹山守具親

言ひてしおがみよのころうちくじまか風
西ほひそへ見えのれいとぞう

左金尉十季景

えきひそその梢よみうらへよ高とわを庭ようりと
た方ひうへくまぢく侍ふよち乃くえ年くゆ
こうちくじまくじまくじまくじまくじまく

五番

左ね

左通棟かの定家

まよひるをあへくじまくじまくじまくじまく

右

安住鶴モ

たすひとよろしく侍候下向よへかることを
後もやたらとおぞくあくまでひともろき
もう次併れとすもくしてお手

三番

左 め

安成

右 横 まわるわより道は秋風とすまもく
山やいとねのゆふゆひともあくよまく冬のれを
を下りまじけあんおほつみややくよひれとまくを
冬をさひ仰せしめりあくよりんさめく汝
御かきくろくまうれゆ中よはれとゆくい
一番 無のすよやふよもきこくわんきのゆをあとこ

四番

左 胸

能守守具親

言ひてしれぬがみよのころからくじまく風

右

左毛尉李景

冬きゆうその梢くまくらひとわく延よきもく
左方すうくまくすし侍よち乃く冬きくゆく
こくらむづくまくかくゆくわく左馬脇

五番

左 め

左道棟かむ定家

まゐるをかくまく川底のよきい波のまく

右

安住鶴モメ

冬きぬとても承筆の云の卷も寝覚未すに大原の里
口す事あらずとせうと云ふ事も行はれどももめり
塔はアリテの事も行はれどももめり
言ふ事もいきまつてはなしはすとぞくつゝ山川のう

背ひつさくやうりてゐる

六番

左勝

散位家長

山ちろく秋のあざれや残すんけひと形ノ浮氣のを

右

前大和守景

昨日又モ秋初寒山里とヒ野の風れ氣をより
をす練めつゝうぬ一ハ御ねどとほくことを
すううわうわうわうわうわうわうわうわう
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
うううううううううううううううううううう

一番

暮漢舟

左勝

安成

言ふ事ゆくの衝ひきよれま鴻あくとくの風す

右

隆祐

えりく事波江の未よ松くでこ見ゆあとあとくは松
をす活わくわくわくわくわくわくわくわくわく
二番

左勝

云經卿

こいよあれすすむはく聞やみうじしれのあとくは

右

云京

夕方にみアドミ内舟ひ、死りあも消よきくは

冬きかなくともか筆の云の春も寝竟秋すに太原の里
みぬかすよきか筆のとむらとさうもせん
いやらん書の言も風よそうはとゆしれこれも
せりづきやうりてゐる

六番

左勝

散位宗長

山ちうく秋のあいだや残すんけひと野望のを

右

前大和守景

昨日を秋初寒の山里とて野の風れ氣色ようへ
をす嫌めつゝてぬへゆけねひとはくさを
春ひさらうれすよけんたおどりせん山里のそ
たふくよほうねとすゑひもせんわん仍

一番 左勝

暮漢舟

安成

言ひゆゆゆく衝きよけま鴻あくとくの風す
右 隆祐

とれりゆゆゆく未よ松キムして、元ゆくあとあくは松
をす活わくよくつきてや行くん仍左勝

二番

左勝

云經卿

こにくよあれよすばく聞やみよじとんあよとくま

右

夕方のみアドミ内舟、死り果て消え去る

夕暮るみにみをみほりあうとす事ころ
もくわくやあれつりわぬ浦向やうとふりか
さまに仍れを勝ともくわ

三毒

左 腸

宗長

えねととて、御承より先て書り成のあすすや火
右
わらひる焉りじ名よ、元進てえが、じあはく
そめ
えまきとくさうとく伊やちうしづゆひとく
一 カムサ

四番

左 腸

宗親

ノ日新をひづくはく浦向わきよ、たつあまの物

右

李京

世故をくほとのれひうあくすり、書れぬかまづみ
たまえとこもくひてみけんくよ、たまうきみ
えつはまとくわく行ふや左乃猪

五番

左

保季

ほのくよづをくほくうもくまの胸

右 腸

あれやれとせ浦のれとよもくひよをあす北嶺
波乃くよ富波行くめはくれふらんとりり
うれいとや行くもくかくまときあ士乃はく

夕暮よりみるみもみほりあらとつ事え
とくわくやあれつりわぬ浦向やまとふりか
さまに仍れを勝とらへくや

三毒

左 腸

宗長

支那カナとどけ、御内ウチナすい徳て着り成のあすすや次
わざカタ乃カタ無ムりじ名メイよ、元ハラ基ヨシてえび、じあくアクきよ
とす心ハラとくク候マサニやちマサニーつしゆシユあいそまモモ
一イチかめゆカメユや

四番

左 腸

具親

ノ日新ヒツキをひとすら酒サケわきよ、たゞあまの弱ヨロシ

右

李京

世セ成ルとくシとののれルひリあケすム着スれムゆムあマらム
たタずタとトとトるルひテみミ候マサニよマサニすマサニをマサニ
そソうトはトうトくト候マサニや左タ乃タ猪シ

五番

左 腸

保季

涼リョウののようををわとくトけトうトうトあマみミ弱ヨロシ

右 腸

ナ

あれやアレやアレ浦ウチナののれルとモとモひヒとモトモ北ヒタチ蠶イシダラ
波ハ乃ナくクよシ富ヒラばハらラこメはハくクれレがガらラんランとリりリ
うウれレをヲ竹カくクかカくクとモきモあマ士シ乃ナはハりリ

而就すとて身もみれを勝とひ

六

さわ

定家

そぞれと身はすの舟もうてらむとちよふうすすり次第

右

巣光

やうゑ夕日とれりあらむ波も波りあまめつる
そえくわいじゆうれどとくう夕景のとを
ひまくはゆうとくとくゆくよひうちれれし
ほしてる竹んたおウ日着り夕日とくふ
アマキム・ウツル・ハゲンヒトシ

一

若野外

左脇

五絆

草は原處れどもとれそくいつく秋のまきひゆく

太

季景

かねうのすもをれらぬれをしひ毛毛やあわ
とれまとしひ
ひくひくやたよ

二

さ

具親

方み分へはきくあひりとどる也

太勝

わやくはねにけみれふよれの花のうく
そそそそそそそ

西就みすてひさくみせれを勝とひへ

六
竜

さわ

定家

そぞれにあはす。舟もうちらをうよふうすすりぬる

右

荒光

やうゑふ夕日とれりあらじゆばり波
きえらめにあまつる。あらじゆばりととくら夕景のと
そえらめにあまつる。あらじゆばりおれれ
ひじまくはづかとまくまくよひらおれれ
ひじまくはづかとまくまくよひらおれれ
ひじまくはづかとまくまくよひらおれれ
ひじまくはづかとまくまくよひらおれれ
ひじまくはづかとまくまくよひらおれれ

一
毒

若野外

を勝

五絃

草はる夜露はあらわしをくづく秋のよさひゆく

太

季景

かれうのともをれらぬれをじの毛毛やあわ
太くちやせふとみとけと妙義とじる
あれうわせふととむよよくひまやたよ
ろーくみとれよ勝とくへ

二
蠶

さ

具親

あみ介

大勝

4

ゆきゆきとけみれよれぬ死のころ
わやくわねんとけみれよれぬ死のころ
をさすをさす(あよひぬと野種)

わやくわねんとけみれよれぬ死のころ
をさすをさす(あよひぬと野種)

こ心もんをひきあけしやままでりんちむすよがれ
すしめよれづくいせんくわとせりかうへよ
傍そぞれてけれと傳とひへ

三者

そめ

寛家

わき君の免はぬてつる茅まくすすうちよ
右
女房
がまもむかねはうりく業あわわんとのめやを
左
左の冬よ會つたとつるともちよくらわ太
亨とてよもくみゆれとく業や、れれと
笑んまうあひほせよは見おうとくわ

四者

そ
翁

宗長

野毛色と秋をくわよびとりぬよようるものと
右
モウ

考すじよきと大月乃色即枯時あす確をあき君
月乃色比引くとそゆひより引くと
正とそとを方逃りだよみて傳とひへ

九者

た

安成

野毛空きはねれ翁がよも伏まくひよくにふ

右翁

云景

ト翁もほの夜の事ア便はく免みせ乃翁は
發毛をそとひと松のうとよもあきいろあえ

されどもさうをぬれりうとまき姿うと寝て
心休まじむひもひすそつる又とねるのちる
ちのものひまひしてとてうそらひしもて
身やみ陽と

六書

大 わ

保 事

ヒカルを取るの意を表れる言葉と見ゆる

右

龍光

衰とも云程の光がとんびりとくくうあきら
とおとれかのを不吉とされてことうちの
のひひづてわたりきよしきよもとて
乃トわくれまよしのけん事といは

まよりてはよがれこまくすのも
せんちえれりゆくとみてゆの心すやを
すみとひとひときまくわざいはまくしてまく
まくはれくまくしてわとくまく

庚辰之元月正旦奉枝以示火人

吉

東方子集卷之三

卷之三

卷之三

